

愛知県立大学

教員の自己点検・自己評価

－ 自己点検・自己評価報告書 －



2018年度

は し が き

愛知県立大学学長 久富木原 玲

今日、大学教員は本来的な使命である教育研究に加えて、「第3の使命」としての社会貢献(中教審「我が国の高等教育の将来像」学校教育法 83 条 2 項)、さらに近年は全学的な教学マネジメント(中教審教育部会審議まとめ「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」)まで、きわめて広汎な責務を負っています。

さらに大学には、教員が上記の職務を果たしているかどうかについて自己点検・自己評価を実施し、それを公表することによって、社会に対する説明責任を果たす責務が課されています(中教審「我が国の高等教育の将来像」)。

本学は公立大学として、教員の公的な活動について広く県民に公開する責任があることを認識して、かなり早い段階から各教員の「自己点検・自己評価報告書」を作成してきました。また、教学の最高決定機関である教育研究審議会に付置された評価委員会において、自己点検・自己評価の項目や方法を絶えず検証し、各教員の教育・研究、教学マネジメント、社会貢献活動の質向上に努めています。本来、自己点検・自己評価は、各教員が独創的な研究とそれに基づく良質な教育を行うために、教員自身の諸活動を自ら点検し、主体的に省察する営みです。

平成 23 年度と 30 年度には、この自己点検・自己評価も含めた大学評価・学位授与機構の認証評価を受けました。23 年度については、毎年「自己点検・自己評価書」の作成・公表を行っていることが「優れた点」とされました。さらに 30 年度は「教員人事評価を組織的に行ない、その結果を教員の処遇に反映させている」として評価されましたが、一方で改善点として、「点検を改善に結びつける教育・研究の質保証体制や方法の整備に弱い面がある」という指摘を受けました。これは「自己点検・自己評価」のみに関するコメントではありませんが、今後、本学が取り組むべき重要な課題として受け止めています。従来、このような点が強く求められることはなかったのですが、来年度から認証評価において重要視される評価項目として「内部質保証」が挙げられていることから、今後へ向けた課題として投げかけられたのであろうと捉えています。今年度は、時期的に評価基準そのものの転換期に当たっていたのです。

今後は、教員それぞれが、このような課題を真摯に受け止めると共に、大学全体として自主自立的な PDCA サイクルを実施する方法や組織のあり方を見直し、再構築していかなければならないと考えています。

愛知県立大学

教員の自己点検・自己評価

2018年度自己点検・自己評価報告書

目 次

愛知県立大学概要

第1章 自己点検・自己評価の様式.....	1
1. 1 自己点検・自己評価項目	1
1. 2 目標と自己評価	2
第2章 自己点検・自己評価結果の概要.....	5
第3章 教員の自己点検・自己評価データ	15
3. 1 外国語学部.....	15
英米学科.....	17
ヨーロッパ学科	65
フランス語圏専攻.....	65
スペイン語圏専攻.....	89
ドイツ語圏専攻.....	111
中国学科.....	133
国際関係学科	153
3. 2 日本文化学部.....	183
国語国文学科	185
歴史文化学科	203
3. 3 教育福祉学部.....	219
教育発達学科	221
社会福祉学科	253
3. 4 看護学部.....	281
看護学科.....	283
3. 5 情報科学部.....	383
情報科学科.....	385
3. 6 学長付	447
学長付.....	449
3. 7 入試・学生支援センター	453
国際交流室.....	455
3. 8 教養教育センター.....	459
教養教育センター.....	461
3. 9 グローバル実践教育推進室.....	471
グローバル実践教育推進室	473
おわりに.....	477

愛知県立大学概要

愛知県立大学は、1947年、愛知県立女子専門学校として創設されて以来、1966年の共学・4年制愛知県立大学の創立と外国語学部の開設をへて、1998年に長久手町に移転し、その際、情報科学部および文学部・外国語学部における3学科を新設し、昼夜開講制の全面実施、大学院国際文化研究科の設置を行ってきた。また、2002年には情報科学研究科を開設した。

一方、愛知県立看護大学は、1968年に愛知県立看護短期大学として創設されて以来、1995年に4年制の大学として開学し、1999年に大学院看護学研究科看護学専攻修士課程を、また、2003年に看護学部助産師コースを設置し、2007年に大学院修士課程に専門看護師コース、2008年に看護実践センターに認定看護師教育課程（がん化学療法看護、がん性疼痛看護）を設置してきた。

新しい愛知県立大学は、2009年、「良質の研究に基づく良質の教育」をモットーとし、また、母体となったふたつの大学の良き伝統を継承しつつ、文系、理系双方の学部を擁する複合大学としてスタートした。外国語学部、日本文化学部、教育福祉学部と情報科学部をおく「長久手キャンパス」と看護学部をおく「守山キャンパス」を有する新愛知県立大学は、本年度に至るまで愛知県域におけるその時々的高等教育のニーズに呼応した教育・研究活動を展開してきている。

・学部・研究科・附置研究所等の構成

- (学部) 外国語学部（英米学科、ヨーロッパ学科、中国学科、国際関係学科）
日本文化学部（国語国文学科、歴史文化学科）
教育福祉学部（教育発達学科、社会福祉学科）
看護学部（看護学科）
情報科学部（情報科学科）
- (研究科) 国際文化研究科
人間発達学研究科
看護学研究科
情報科学研究科
- (関連組織) 入試・学生支援センター
教育支援センター
教養教育センター
学術研究情報センター
地域連携センター
看護実践センター
- (研究所) 通訳翻訳研究所
文字文化財研究所
生涯発達研究所
情報科学共同研究所
次世代ロボット研究所
- (関連施設) 大学附属図書館
講堂・学術文化交流センター

・ 学生総数及び教職員総数（平成30年5月1日時点）

(学生総数)：学部 3, 290名、大学院 234名

(教員総数)：215名

(教員以外の職員総数)：97名（職員38、派遣職員10、契約職員49）

第1章 自己点検・自己評価の様式

1. 1 自己点検・自己評価項目

平成28年度～平成30年度の3カ年の実績等を基にして、以下の項目について本年度の目標・計画に対する自己評価を行った。

I 研究活動 (ウェイト %)

- 研究課題
- 学界動向と研究課題の関係
- 目標・計画
- 過去3年間の研究業績(特許なども含む)
- 科学研究費補助金等への申請状況、交付状況等(学内外)
- 自己評価

II 教育活動 (ウェイト %)

- 目標・計画
- 専門教育科目(講義・演習)
- 一般教育科目(講義・演習)
- 大学院授業科目
- 論文指導・研究指導
- 自己評価

III 大学運営 (ウェイト %)

- 目標・計画
- 学内委員など
- 自己評価

IV 社会貢献 (ウェイト %)

- 目標・計画
- 学会活動など
- 地域連携・地域貢献など
- 自己評価

V その他の特記事項(学外研究、受賞歴、国際学術交流など)

VI 総括(リフレクションを含む)

1. 2 目標と自己評価

本年度も前年度の書式を継承し、年度はじめに目標・計画を記入し、報告書作成時に同一シートに結果と自己評価を追記する方法とした。また、自己評価について、3通りの文言のいずれかでまとめることにより客観性を持たせた。十分でない場合は必要に応じて改善策を記入することとした。以下に自己評価の項目を示す。

<目標・計画、ウェイト>

年度はじめに目標・計画およびウェイト（合計が100%）を記入し、委員に提出する。

<自己評価>

研究活動、教育活動の自己評価では、理由を記すとともに最後は下記のいずれかの文言でまとめ、「あまり達成できなかった」の場合は、その後に改善策を書くこと。「おおむね達成した」の場合は、改善策があれば書くこと。

- ・目標を十分達成した。
- ・おおむね目標を達成した。
- ・目標をあまり達成できなかった。

大学運営の自己評価では、理由を記すとともに、下記のいずれかの文言でまとめ、「あまり貢献できなかった」の場合は、その後に改善策を書くこと。「おおむね貢献した」の場合は、改善策があれば書くこと。

- ・大学運営に十分貢献した。
- ・大学運営におおむね貢献した。
- ・大学運営にあまり貢献できなかった。

社会貢献の自己評価では、理由を記すとともに、下記のいずれかの文言でまとめ、「あまり貢献できなかった」の場合は、その後に改善策を書くこと。「おおむね貢献した」の場合は、改善策があれば書くこと。

- ・社会に十分貢献した。
- ・社会におおむね貢献した。
- ・社会にあまり貢献できなかった。

<総括>

全体の総括では、過年度の成果・課題をふまえて、リフレクション（教員自身の振り返り）を意識した記述に努めること。

自己点検自己評価の妥当性を高めるため、昨年度に引き続き、以下の項目について本人以外（各学部で選出）の複数名体制で形式面のチェックをし、満足しない場合は修正を依頼した。

- 目標・計画
 - ・目標が記述してあるか
 - ・目標に対して具体的な計画が記述してあるか
- 研究業績、教育業績、学内委員、学会活動、社会貢献など
 - ・具体的に記述してあるか
- 自己評価
 - ・目標・計画の達成度等を含め、実績を基に自己評価されているか
 - ・「十分貢献達成した」、「おおむね貢献達成した」、「あまり貢献達成できなかった」のいずれかでまとめられているか
 - ・「あまり貢献達成できなかった」の場合は、その後に改善策などが書かれているか
- 総括
 - ・リフレクションが含まれているかどうか

前年度に引き続き、自己点検自己評価の妥当性を高めるため、自己点検自己評価の各項目について本人以外（各学部で選出）の複数名体制（表1-1）で形式面をチェックし、チェック事項の条件を満足しない場合は修正を依頼した。

表1-1 チェック体制

学部	体制	備考
外国語学部	学部評価委員＋6名	
日本文化学部	学部評価委員＋1名	
教育福祉学部	学部評価委員＋1名	
看護学部	学部評価委員＋7名	学部に自己点検評価委員会を組織。
情報科学部	学部評価委員＋1名	
教養教育センター	センター長・副センター長	

第2章 自己点検・自己評価結果の概要

自己点検・自己評価のうち、研究活動、教育活動、大学運営、社会貢献についての自己評価における達成度（十分達成／貢献、おおむね達成／貢献、達成／貢献できなかった）の割合を以下に示す。

1. 大学全体の達成度

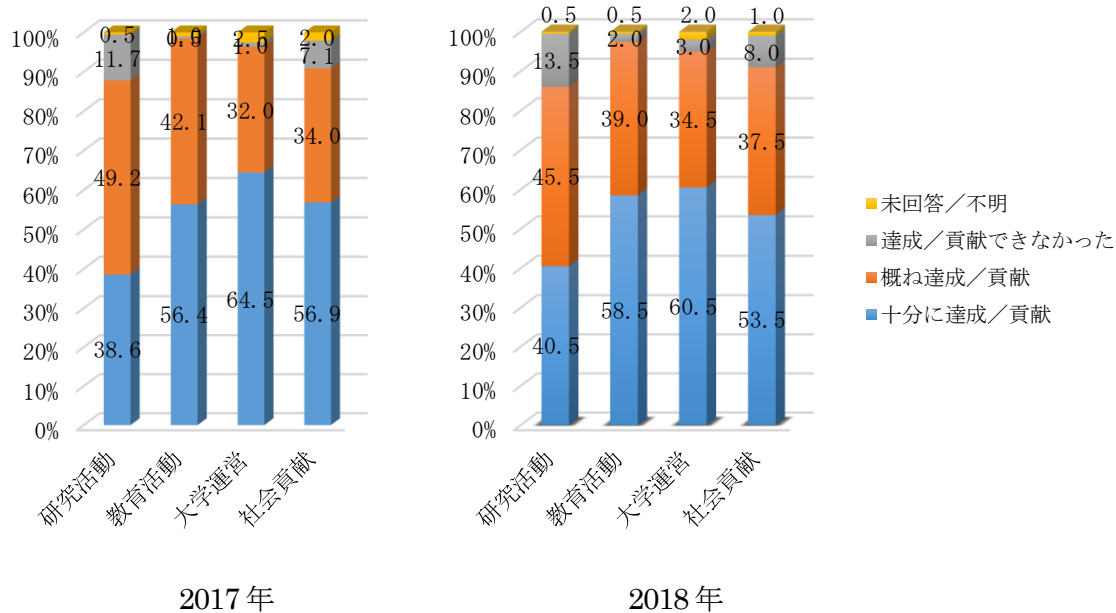


図2-1 達成度の割合（全体）

全学では、「研究活動」「教育活動」「大学運営」「社会貢献」の4項目のうち、「十分に達成／貢献」または「概ね達成／貢献」と回答している割合が最も高かった項目は、昨年度と同様、「教育活動」（97.5%）であり、僅差で「大学運営」（95.0%）が続く。他方、「十分に達成／貢献」に限定すると、「大学運営」が60.5%と高いが、昨年度と比べて4%減少している。学部では外国語学部が9%程度、日本文化学部が8%程度の減少が影響していると考えられる。この変化に関しては一概には言えないが、日本文化学部の分析では、学内運営業務の増大に十分対応出来なかった事が挙げられる。一方で、「教育活動」において「十分に達成／貢献」がやや上昇している。「研究活動」と「社会貢献」の全体に対する評価の割合は例年と同程度と思われる。詳しくは、次ページ以降の各学部の分析を参照されたい。

次に、各学部の概要を図2-2～図2-6に示す。

2. 外国語学部

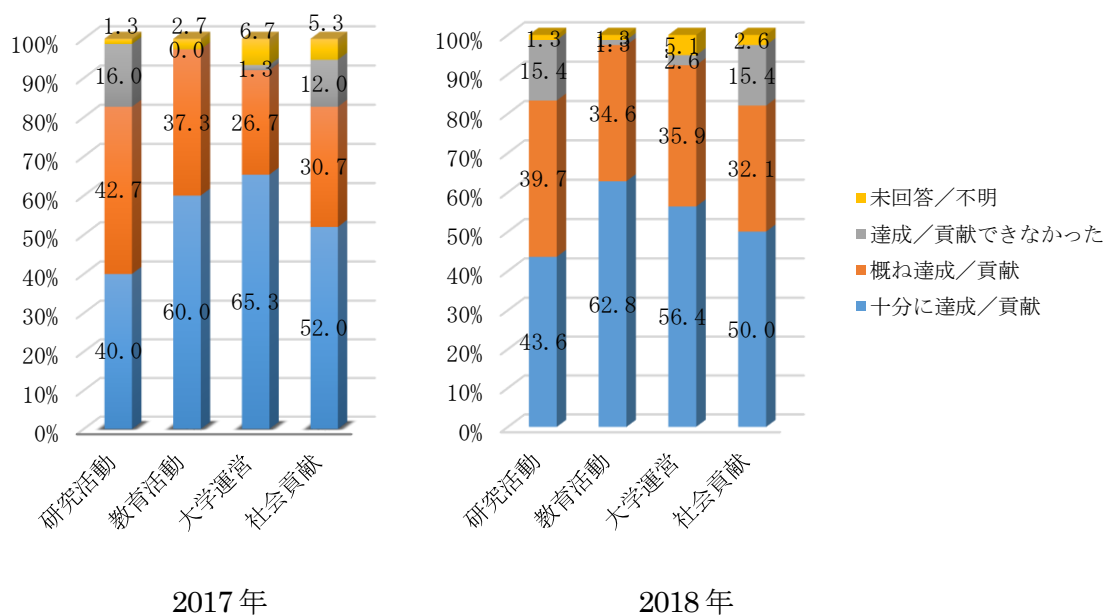


図2-2 達成度の割合 (外国語学部)

今年度も例年と同様の傾向を示している。「十分に達成/貢献」したとする項目は教育活動、ついで大学運営の順になっており、「概ね達成/貢献」とあわせても同様の傾向になっている。それに比して、研究活動と社会貢献の評価は低めである。研究活動について、目標を達成できなかったとするケースには、本人の病気、家族の介護や育児など個人的な事情によるもののほか、平成28年度の報告書でも指摘されているとおり、研究結果が公刊されるまでに1年以上かかる場合があることなどがあげられる。また、多くの教員が、限られた時間を教育活動と大学運営により多く割いている状況が窺える。

社会貢献の評価の低さについては、平成27年度の報告書でも触れられているとおり、本学部独自の事情が存在する。本学部には、任期付きの外国人客員教員が配置されており、職務内容の異なるこれらの教員が回答する場合に、「貢献できなかった」「未回答」（そもそもウエイトが設定されていない）となってしまうことが多いのである。

とはいえ、およそ3分の2の教員が目標を十分もしくは概ね達成しており、過年度の評価を踏まえながら、自身の活動の目標を設定し、その実現に向けて邁進していることが窺える。

3. 日本文化学部

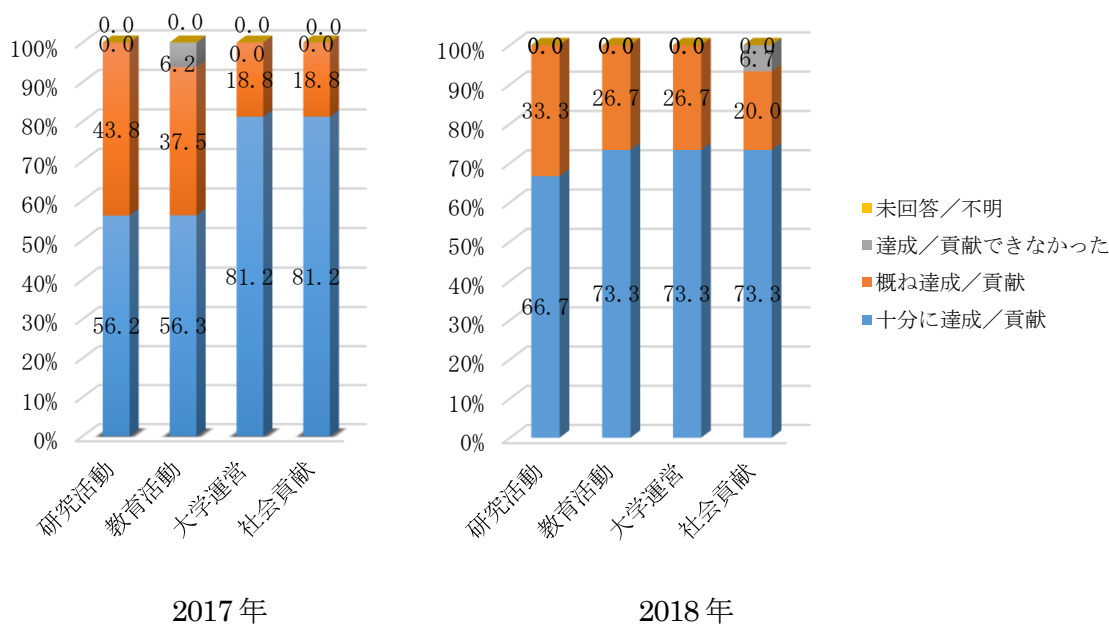


図2-3 達成度の割合（日本文化学部）

学部教員の大部分が研究、教育、大学運営、社会貢献のすべての項目で十分またはおおむね達成・貢献できたと評価している。昨年度との比較では、研究と教育において「十分達成」の比率が上昇し、大学運営と社会貢献においては「おおむね貢献」の比率が上昇している。

数値だけからみれば、研究・教育の達成感が前年度よりも高まったことがうかがえ、実際、大部分の教員が精力的に論文、著書執筆の成果を上げ、多様な教育実践に取り組んでいる。しかしその一方で、リフレクションの多くで学内運営等の業務量が増大し、その時間的、精神的、体力的負担感を指摘しており、総合評価はそうした対処・対応の結果と判断される。自己点検・評価の文面には表れてきていない体調不良や長期療養を要する教員の存在は、学部に限らず、大学運営全般のあり方に課題を投げかけているといえよう。

社会貢献で未達成のケースが見られたが、高大連携の取り組みを強めていくことで達成度を高めたいという意志を示している。全体として、大学教員として積極的に研究、教育、大学運営や社会貢献に関与していきたいという姿勢は、本学部の共通認識となっていると判断され、評価できる点である。

4. 教育福祉学部

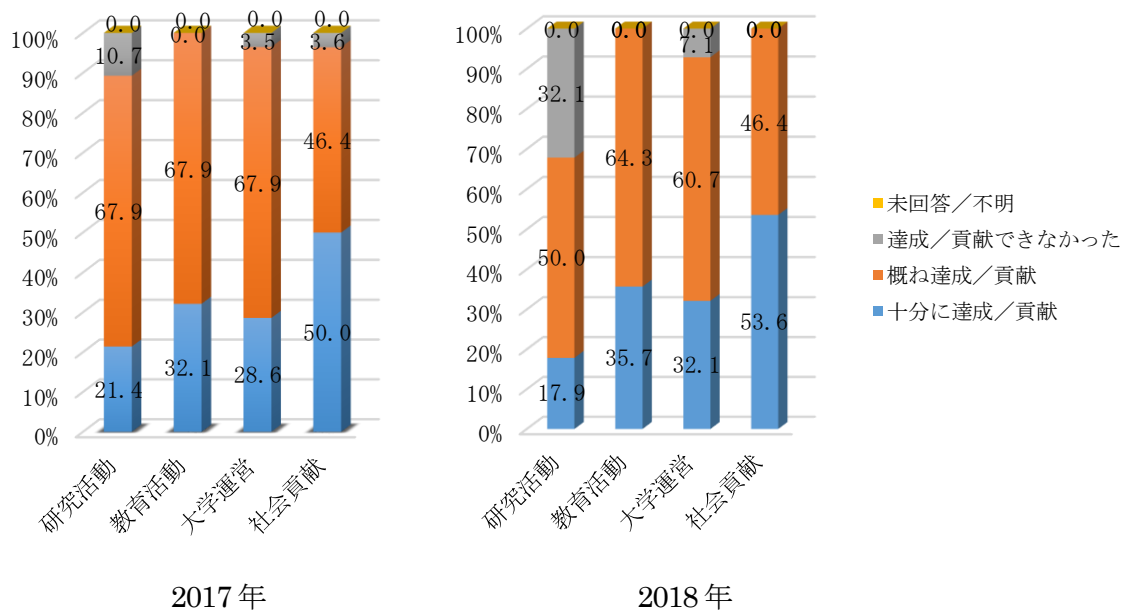


図2-4 達成度の割合（教育福祉学部）

教育活動、大学運営、社会貢献については、例年通り、ほとんどの教員が「十分に達成/貢献」あるいは「概ね達成/貢献」できていると評価している。教育活動と社会貢献については「達成/貢献できなかった」教員はいない。特に社会貢献については、昨年同様に「十分に貢献した」教員が最も多く、その割合も僅かだが増加している。教育活動では、授業改善や授業外での学生指導に熱心に取り組んでいる様子が窺える。社会貢献については、学会活動だけでなく、行政機関の各種審議会・委員会等の委員、社会福祉法人や学校の評議員、研修会講師等として、地域で活躍している教員が多い。「総括」では、今年度、社会貢献の機会が増加したとする教員、社会貢献の発展を今後の課題に挙げる教員も複数人おり、全体として、社会貢献に対する意識が高まっているといえる。

一方で、研究活動では「あまり達成できなかった」と評価する教員が増加した。その要因としては、調査先の都合や本人の体調等の問題の他に、大学運営業務の増加により、研究活動に費やせる時間が十分に取れないことが挙げられている。「十分に達成」「概ね達成」という回答の中にも、「総括」欄で、研究活動の時間の捻出が課題に挙げられている。今年度は大学運営体制が新しくなったことも影響したのかもしれないが、大学運営や社会貢献に労力が割かれることで、研究活動や教育活動にしわ寄せが行っていると考えられる。

全体としては、いずれの項目も、ほとんどの教員が「十分に達成/貢献」あるいは「概ね達成/貢献」と評価しており、研究活動、教育活動、大学運営、社会貢献の全般にわたって、意欲的に取り組んできたといえる。また、「あまり貢献/達成できなかった」「概ね貢献/達成した」点についても、各教員のリフレクションにおいて、具体的な改善策や改善への意欲が窺えた。

5. 看護学部

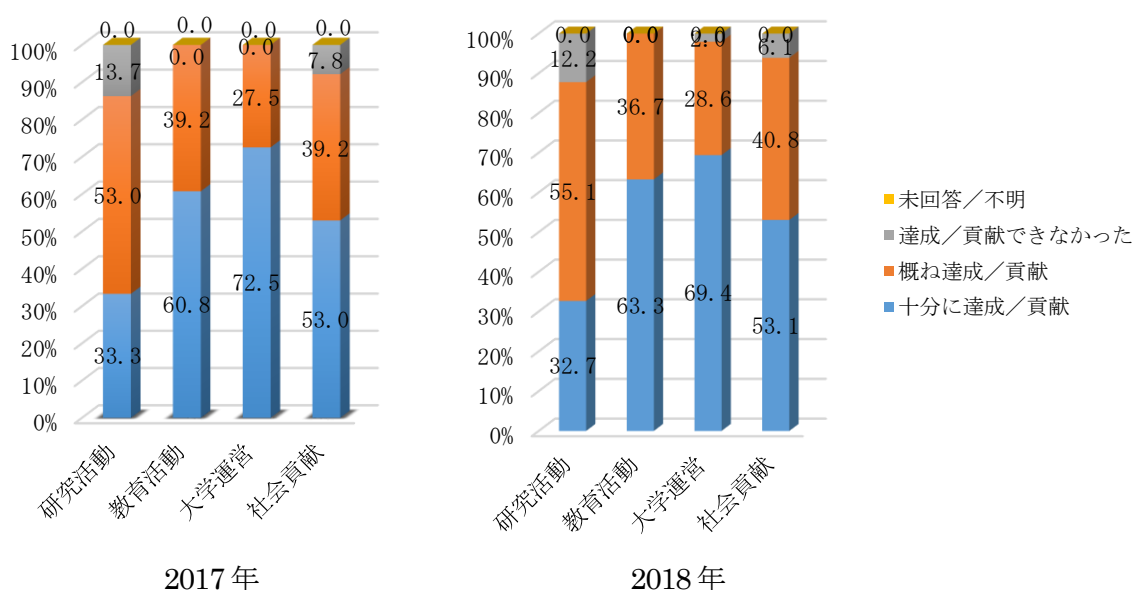


図2-5 達成度の割合（看護学部）

研究活動では、87.8%の教員が目標を十分に、あるいは概ね達成できたと評価し、昨年度の値を上回った。このことは論文発表や学会発表の数からも裏付けられる。一方、達成できなかったとの回答でも、自己の目標設定に対して厳しく評価した結果と解釈できるものが多い。以上から、看護学部は活発に研究活動し、目標をほぼ達成したと評価する。

教育活動では、全員が十分に、あるいは概ね目標を達成できたと評価した。看護学部は必修の授業科目に加えて多くの演習や実習指導を行うが、全員が強い責任感と熱意をもって教育活動に取り組んだ結果と評価する。

大学運営でも、98.0%の教員が目標を十分に、あるいは概ね達成できたと回答した。全教員が委員として何らかの委員会に所属しているが、実際にそこで活発な活動が行われた結果であると評価する。

社会貢献では、93.9%の教員が十分に、あるいは概ね目標を達成できたと評価した。この値は昨年より上がっており、ほとんどの教員が学外での学会運営、地域住民の健康増進活動、臨床看護師の研究支援等を意識して積極的に活動している結果と評価する。

教員自身によるリフレクションでは、目標達成に不足していたと思われる部分についての分析と改善策が記されており、活動全般に対する真摯な姿勢が伺われた。

これらの評価を総合すると、前年度と比べて目標達成度の数字がやや上昇している項目が多かったことから、平成30年度の看護学部は、研究、教育、大学運営、社会貢献の全般にわたって活発に活動し、ほぼ目標を達成できたと判断できる。

6. 情報科学部

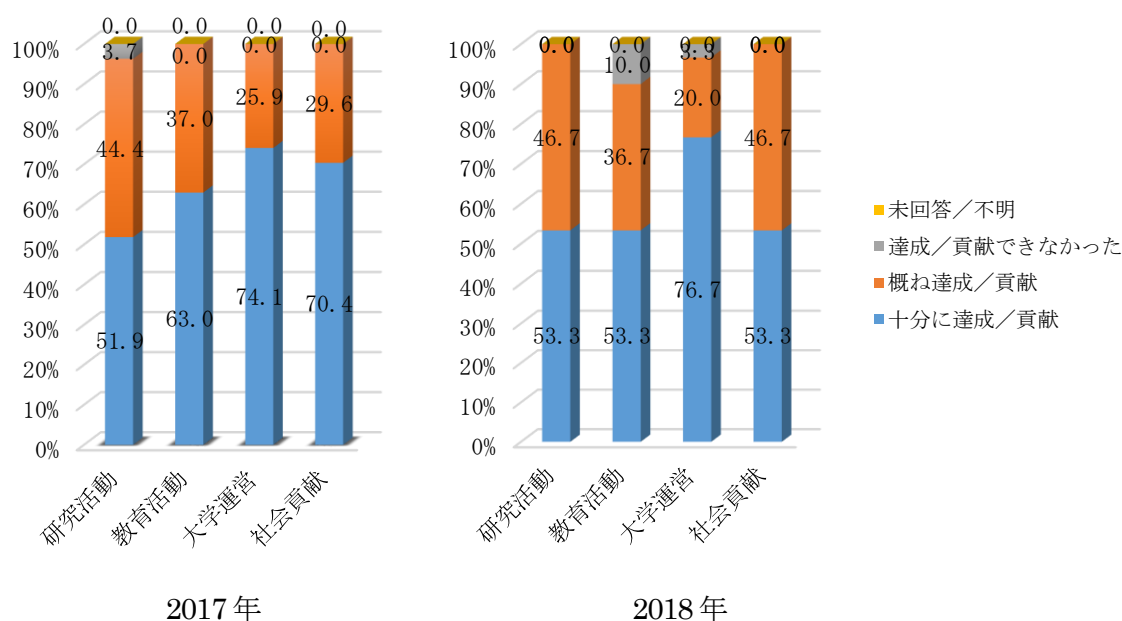


図2-6 達成度の割合 (情報科学部)

平成30年度においては、情報科学部全教員（30名）より自己点検・自己評価の報告があった。昨年度と同様、研究活動・教育活動・大学運営・社会貢献において、ほとんどの教員が「十分に達成/貢献」あるいは「概ね達成/貢献」しており、情報科学部のすべての評価項目への高い達成度・貢献度と評価できる。

研究活動では、多くの研究成果が発表されたとともに、科研費をはじめとする外部資金の申請・確保が行われていた。全教員が「十分に達成」あるいは「概ね達成」しており、非常に高い達成度だと言える。

教育活動においては、53%の教員が「十分に達成」、37%の教員が「概ね達成」と回答しており、比較的高い達成度である。なお、「達成できなかった」と答えた3人の教員の中、1人は健康不調のためであり、残りの2人は報告内容から自分に厳しすぎる要求していると判断できる。

大学運営では、77%の教員が「十分に貢献」、20%の教員が「概ね貢献」しており、ほとんどの教員が大学運営に積極的に貢献していることが伺える。また、「貢献できなかった」と回答した教員は健康不調のためである。

社会貢献に関しては、多くの教員が様々な地域連携など社会貢献を行っており、学会活動など参加している。全教員が「十分に貢献」あるいは「概ね貢献」しており、非常に高い貢献度だと言える。

以上により、平成30年度の情報科学部は、例年通り、研究活動・教育活動・大学運営・社会貢献の全般にわたって積極的に活動し、目標が達成できたと判断できる。また、すべての教員が今年度の自己点検・自己評価の結果（総括）を踏まえて来年度への取り組み・改善点を述べている。

7. 評価項目別実数

自己点検・自己評価の評価項目ごとの実数を表2-1（2017年度）及び表2-2（2018年度）に示す。

表2-1 2017年度のデータ
評価項目別の実数（大学全体）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	76	97	23	1
教育活動	111	83	1	2
大学運営	127	63	2	5
社会貢献	112	67	14	4

評価項目別の実数（外国語学部）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	30	32	12	1
教育活動	45	28	0	2
大学運営	49	20	1	5
社会貢献	39	23	9	4

評価項目別の実数（日本文化学部）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	9	7	0	0
教育活動	9	6	1	0
大学運営	13	3	0	0
社会貢献	13	3	0	0

評価項目別の実数（教育福祉学部）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	6	19	3	0
教育活動	9	19	0	0
大学運営	8	19	1	0
社会貢献	14	13	1	0

評価項目別の実数（看護学部）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	17	27	7	0
教育活動	31	20	0	0
大学運営	37	14	0	0
社会貢献	27	20	4	0

評価項目別の実数（情報科学部）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	14	12	1	0
教育活動	17	10	0	0
大学運営	20	7	0	0
社会貢献	19	8	0	0

表2-2 2018年度のデータ

評価項目別の実数（大学全体）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	81	91	27	1
教育活動	117	78	4	1
大学運営	121	69	6	4
社会貢献	107	75	16	2

評価項目別の実数（外国語学部）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	34	31	12	1
教育活動	49	27	1	1
大学運営	44	28	2	4
社会貢献	39	25	12	2

評価項目別の実数（日本文化学部）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	10	5	0	0
教育活動	11	4	0	0
大学運営	11	4	0	0
社会貢献	11	3	1	0

評価項目別の実数（教育福祉学部）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	5	14	9	0
教育活動	10	18	0	0
大学運営	9	17	2	0
社会貢献	15	13	0	0

評価項目別の実数（看護学部）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	16	27	6	0
教育活動	31	18	0	0
大学運営	34	14	1	0
社会貢献	26	20	3	0

評価項目別の実数（情報科学部）

項目	十分に達成 ／貢献	概ね達成 ／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	16	14	0	0
教育活動	16	11	3	0
大学運営	23	6	1	0
社会貢献	16	14	0	0

第3章 教員の自己点検・自己評価データ

(教員名簿、教員の自己点検・自己評価結果)

3. 1 外国語学部

●英米学科	
阿南 東也	○熊谷 吉治・・・・・・・・・・40
○池田 周・・・・・・・・・・18	○袖川 裕美・・・・・・・・・・42
○石原 覚・・・・・・・・・・20	○中島 醸・・・・・・・・・・44
○榎本 洋・・・・・・・・・・22	○中村 不二夫・・・・・・・・・・46
○エレノア ロビンソン 山口・・・・・・・・24	○リチャード マーク ニクソン・・・・・・・・48
○デミエン オオカドゴーフ・・・・・・26	○久田 由佳子・・・・・・・・・・50
○大森 裕實・・・・・・・・・・28	○広瀬 恵子・・・・・・・・・・52
○奥田 泰広・・・・・・・・・・30	○正木 慶介・・・・・・・・・・54
○小澤 正人・・・・・・・・・・32	○三原 穂・・・・・・・・・・56
○ワキーン エマニュエル カステヤーノ・・34	○村山 瑞穂・・・・・・・・・・58
○梶原 克教・・・・・・・・・・36	○森田 久司・・・・・・・・・・60
○木全 滋・・・・・・・・・・38	○ロサ オムラティグ・・・・・・・・・・62
●ヨーロッパ学科 フランス語圏専攻	
○天野 知恵子・・・・・・・・・・66	○長沼 圭一・・・・・・・・・・78
○伊藤 滋夫・・・・・・・・・・68	○原 潮巳・・・・・・・・・・80
○岸本 聖子・・・・・・・・・・70	○フランク モラーレ・・・・・・・・・・82
○佐藤 久美子・・・・・・・・・・72	○野内 美子・・・・・・・・・・84
○白谷 望・・・・・・・・・・74	○モルガン ダレン・・・・・・・・・・86
○中田 晋自・・・・・・・・・・76	
●ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻	
○アレックス ピナル ガルシア・・・・・・・・90	○竹中 克行・・・・・・・・・・100
○糸魚川 美樹・・・・・・・・・・92	○田中 敬一・・・・・・・・・・102
○江澤 照美・・・・・・・・・・94	○谷口 智子・・・・・・・・・・104
○奥野 良知・・・・・・・・・・96	○アランスコ ハビエル ロペス・ロドリゲス・・・・106
○小池 康弘・・・・・・・・・・98	○渡会 環・・・・・・・・・・108
●ヨーロッパ学科 ドイツ語圏専攻	
○池田 利昭・・・・・・・・・・112	○平井 守・・・・・・・・・・122
○今野 元・・・・・・・・・・114	○ザシャ モンホフ・・・・・・・・・・124
○櫻井 健・・・・・・・・・・116	○山本 順子・・・・・・・・・・126
○杉原 周治・・・・・・・・・・118	○ヤン ゲリット シュトララー・・・・・・・・128
○人見 明宏・・・・・・・・・・120	○四ツ谷 亮子・・・・・・・・・・130
●中国学科	
○王 幼敏・・・・・・・・・・134	○孫 徳坤・・・・・・・・・・144
○川尻 文彦・・・・・・・・・・136	○月田 尚美・・・・・・・・・・146
○工藤 貴正・・・・・・・・・・138	○西野 真由・・・・・・・・・・148
○黄 東蘭・・・・・・・・・・140	△楊 明
○小座野 八光・・・・・・・・・・142	○吉池 孝一・・・・・・・・・・150
△鈴木 隆	

●国際関係学科	
○秋田 貴美子・・・・・・・・・・154	○福岡 千珠・・・・・・・・・・168
○東 弘子・・・・・・・・・・156	○藤倉 哲郎・・・・・・・・・・170
○亀井 伸孝・・・・・・・・・・158	○宮谷 敦美・・・・・・・・・・172
○木下 郁夫・・・・・・・・・・160	○矢野 順子・・・・・・・・・・174
○高阪 香津美・・・・・・・・・・162	○山口 雅生・・・・・・・・・・176
○高橋 慶治・・・・・・・・・・164	○山下 朋子・・・・・・・・・・178
○半谷 史郎・・・・・・・・・・166	○エドガー ライト ポープ・・・・・・・・180

○：提出、△：長期出張、長期休暇、10月着任、転出などの理由で提出不可能、無印：未提出

3. 2 日本文化学部

●国語国文学科	●歴史文化学科
○伊藤 伸江・・・・・・・・・・186	○井戸 聡・・・・・・・・・・204
○久保 愛・・・・・・・・・・188	○大塚 英二・・・・・・・・・・206
○中根 千絵・・・・・・・・・・190	○上川 通夫・・・・・・・・・・208
○福沢 将樹・・・・・・・・・・192	○川畑 博昭・・・・・・・・・・210
○三宅 宏幸・・・・・・・・・・194	○中島 茂・・・・・・・・・・212
○宮崎 真素美・・・・・・・・・・196	△中西 啓太
○本橋 裕美・・・・・・・・・・198	○服部 亜由未・・・・・・・・・・214
○若松 伸哉・・・・・・・・・・200	△樋口 浩造
	○丸山 裕美子・・・・・・・・・・216

○：提出、△：長期出張、長期休暇、10月着任、転出などの理由で提出不可能、無印：未提出

3. 3 教育福祉学部

●教育発達学科	●社会福祉学科
○伊藤 稔明・・・・・・・・・・・・・・・・222	○宇都宮 みのり・・・・・・・・・・・・254
○稲嶋 修一郎・・・・・・・・・・・・224	○大賀 有記・・・・・・・・・・・・256
○内田 純一・・・・・・・・・・・・226	○田川 佳代子・・・・・・・・・・・・258
○大貫 守・・・・・・・・・・・・228	○湯 海鵬・・・・・・・・・・・・260
○葛西 耕介・・・・・・・・・・・・230	○中尾 友紀・・・・・・・・・・・・262
○久保田 貢・・・・・・・・・・・・232	○中藤 淳・・・・・・・・・・・・264
○瀬野 由衣・・・・・・・・・・・・234	○野田 博也・・・・・・・・・・・・266
○高橋 範行・・・・・・・・・・・・236	○橋本 明・・・・・・・・・・・・268
○田村 佳子・・・・・・・・・・・・238	○松宮 朝・・・・・・・・・・・・270
○藤原 智也・・・・・・・・・・・・240	○村田 一昭・・・・・・・・・・・・272
○堀尾 良弘・・・・・・・・・・・・242	○山本 かほり・・・・・・・・・・・・274
○丸山 真司・・・・・・・・・・・・244	○吉川 雅博・・・・・・・・・・・・276
○三山 岳・・・・・・・・・・・・246	○渡邊 かおり・・・・・・・・・・・・278
○山本 理絵・・・・・・・・・・・・248	
○渡邊 眞依子・・・・・・・・・・・・250	

○：提出、△：長期出張、10月着任、長期休暇、転出などの理由で提出不可能、無印：未提出

3. 4 看護学部

●看護学科	
○天木 伸子	284
○天草 百合江	286
○石光 芙美子	288
○牛島 佳代	290
○宇城 令	292
○大原 良子	294
○岡田 悦政	296
○岡本 和士	298
○荻 あや子	300
○鬼塚 知里	302
○尾沼 奈緒美	304
○籠 玲子	306
○賀沢 弥貴	308
○勝村 友紀	310
○加藤 宏公	312
○片岡 純	314
○片岡 由美子	316
○片平 正人	318
○神谷 摂子	320
○汲田 明美	322
○黒川 景	324
○小松 万喜子	326
○佐藤 美紀	328
○柴 邦代	330
○清水 宣明	332
○下園 美保子	334
○杉山 希美	336
○曾田 陽子	338
○田上 恭子	340
○戸田 由美子	342
○中戸川 早苗	344
○西尾 亜理砂	346
○西岡 裕子	348
○服部 淳子	350
○馬場 美幸	352
△平野 明美	
○広瀬 会里	354
○深田 順子	356
○藤野 あゆみ	358
○古田 加代子	360
○松岡 広子	362
○三尾 亜喜代	364
○箕浦 哲嗣	366
○百瀬 由美子	368
○柳澤 理子	370
○山田 浩雅	372
○横山 加奈	374
○吉田 彩	376
△米川 美那	
○米田 雅彦	378
○渡邊 直美	380

○：提出、△：長期出張、長期休暇、10月着任、転出などの理由で提出不可能、無印：未提出

3. 5 情報科学部

●情報科学科			
○伊藤 正英	386	○小林 邦和	416
○入部 百合絵	388	○佐々木 敬泰	418
○臼田 毅	390	○ジメネス ラム フェリックス アグス	420
○大久保 弘崇	392	○代田 健二	422
○太田 淳	394	○鈴木 拓央	424
○奥田 隆史	396	○田坂 浩二	426
○小栗 宏次	398	○辻 孝吉	428
○小畑 建太	400	○田 学軍	430
○何 立風	402	○戸田 尚宏	432
○粕谷 英人	404	○永井 昌寛	434
○金森 康和	406	○平尾 将剛	436
○神谷 直希	408	○村上 和人	438
○神谷 幸宏	410	○山村 毅	440
○神山 斉己	412	○山本 晋一郎	442
○河中 治樹	414	○吉岡 博貴	444

○：提出、△：長期出張、長期休暇、10月着任、転出などの理由で提出不可能、無印：未提出

3. 6 学長付

●学長付	
○高島 忠義・・・・・・・・・・・・・・・・450	

○：提出、△：長期出張、長期休暇、10月着任、転出などの理由で提出不可能、無印：未提出

3. 7 入試・学生支援センター

●国際交流室	
○桑村 昭・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 5 6	

○：提出、△：長期出張、長期休暇、10月着任、転出などの理由で提出不可能、無印：未提出

3. 8 教養教育センター

●教養教育センター	
○アンドレア カールソン・・・・・・・・・・462	○ジョシュ ブルノティ・・・・・・・・・・466
○クリストファー ワイル・・・・・・・・・・464	○クレイグ ジョーンズ・・・・・・・・・・468

○：提出、△：長期出張、長期休暇、10月着任、転出などの理由で提出不可能、無印：未提出

3. 9 グローバル実践教育推進室

●グローバル実践教育推進室	
○ブレット ハック・・・・・・・・・・・・・・・・	474

○：提出、△：長期出張、長期休暇、10月着任、転出などの理由で提出不可能、無印：未提出

おわりに

評価委員会委員長 戸田尚宏

本年度は新学長体制の初年度であり、大学が認証評価を受け、さらに、来年度からスタートする第三期の中期目標・中期計画が設置者である県との擦り合わせの中で策定された年でもあり大きな節目であったと言える。大学の役割を果たしていくためには、そうした社会からの要請を各教員が認識し、咀嚼を経て主体的な行動へと変換していく事が最も重要である。それを実現していくための組織の取り組みとして自己点検・自己評価報告書作成は、教員個人が1年間の仕事を総括し、次の課題を確認するために、報告書作成の機会をいかしてもらふこと、という大きな意義を持っている。平成18年(2006年)に始まったこの取り組みは本年度で13年目を迎えたが、継続的に進めてきた本事業の役割がこの期間で各教員に十分認識されたものと考えられる。

自己点検自己評価を行っている一教員の視点から述べるが、「リフレクション」という用語の導入は教員の振り返り行為自体への反省も促すものと捉えれば納得できた。すなわち、自己の評価基準がこれで良いのか、という考察を促すものと考えられる。本当にしたかったのは何か、現在取り組んでいる事はそのためにどのような位置づけなのか、そもそもなぜそれを本当にしたかったのか、などを考えざるを得なかった。

こうした気づきは、直ちに成果に結びつくことはなく、むしろ、一旦は効率が下がるかも知れない。しかし、継続していく中で、より明確な基礎を形成していくことになると信じられる。そうした個の集合として大学全体は極めて大きな力を発揮できるようになると考える。

平成30年度評価委員会委員名簿

	学部等	委員名
学部選出の教育研究審議会委員	外国語学部	広瀬 恵子
	日本文化学部	宮崎 真素美
	教育福祉学部	橋本 明
	看護学部	服部 淳子
	情報科学部	戸田 尚宏 (委員長)
各学部選出委員	外国語学部	久田 由佳子
	日本文化学部	中島 茂
	教育福祉学部	渡邊 眞依子
	看護学部	片平 正人
	情報科学部	何 立風
事務部門長		池田 敏幸
守山キャンパス長		丸山 勝
オブザーバー	副学長	丸山 真司

愛知県立大学
教員の自己点検・自己評価
— 自己点検・自己評価報告書 —

平成31年3月発行

編集・発行

愛知県立大学 教育研究審議会 評価委員会

〒480-1198 (個別番号)

愛知県長久手市茨ヶ廻間1522番3

TEL 0561-64-1115

FAX 0561-64-1101

E-mail soumuka@puc.aichi-pu.ac.jp